

あだたら

九月八日(土)〜九日(日)

六十周年記念登山

岩手・八幡平山行

報告 久保五三

発行所
本松市木ノ根坂
あだたら山の会
編集 集部



▼全日程並びに

Aコース、久保五三

●編集部連絡先
二本松市郡内1-5-15
0243(22) 4245
渡辺 正

九月八日(土)曇、午前八時半、お城山駐車場集合。記念登山と懇親会を通して安達太良山の会創立六十周年記念を祝うと共に、更なる連帯感を深めることを趣旨に午前八時五十分出発。東北道二本松ICより午前十時菅生SAで休憩。午前十一時三十分、前沢SAで昼食、土曜日で混雑していた。午後0時二十分出発。花巻南ICで下り、高村山荘(高村光太郎記念館)に午後一時到着。入口に記念館があり、奥にヤマボウシ、栗の大木等木々に囲まれ、風情あふれるロケーションの中に高村山荘が佇む。山荘は、屋根が杉の皮で葺かれ、柱や腰板は栗材。壁は土壁、床は土間であった。冬は大変であったろうと思われる。光太郎の心情が偲ばれた。花巻南ICから東北道に再び上る。午後二時。道路沿いは、紅葉はまだ早いナナカマドの実が赤く色づいていた。松尾八幡平ICを午後三時三十分下り、二十五分程山道を走り、松川温泉・松楓荘に午後四時到着。秘湯に相

応しい建物の佇まいに感動する。玄関に行くとき美人の若女将が出迎えてくれた。七部屋に案内され、それぞれの部屋に分かれる。荷物を置いて先ず風呂に入ると、降車時に渡されたビールで乾杯。午後六時半から懇親会(宴会)。御膳の脇には創立六十周年記念の契斗付いた紅白の鶴の子(菓子)が添えてあり、一同驚く。祝賀会の雰囲気も一層高まる。青木会長の挨拶に続き、本田忠義さんの音頭で正式に乾杯をする。宴会は、菅野善雄さんと夫婦、佐藤富子さんと夫婦等にぎやかさを増し、会長の鶴の子サブライズで大いに盛り上がり、盛會裏に終了。それぞれ部屋に戻り二次会、明日の行程を話し、早々に床に就いた。

九日午前五時頃、川の流れる音と雨降る音で目が覚める。朝風呂に行く。昨晩は露天風呂には入っていないので、入ったが大変熱く、早々に内風呂に戻った。午前七時半より朝食。昼食用弁当とドリンクを頂き、名残惜しいが雨降る中、女将に見送られバスに乗車。午前八時二十五分出発。Aコース(茶臼岳登山口)、Bコース(黒谷地湿原登山口)、Cコース(八幡平頂上駐車場)の三コースがあり、最初はAコース、次Bコース、Cコースと登山口までバスで周り、私は、Aコースで降りる。学さん、



学さん、内田さん、高橋さん、久保の五人。学さんのCコースで出発。入り口から十五分位は、急な登り。後は、緩やかな登り下り。茶臼岳山午前九時五十分、陵雲荘午前十一時半、八幡平山頂午後0時十五分登頂。B、Cコースと合流、一旦休憩し、会長の音頭で創立六十周年記念登頂の乾杯をする。その後山頂で昼食予定であったが、雨が強かったため、下山してレストハウスで取ることにした。午後一時四十五分レストハウス出発。午後二時四十分松尾八幡平ICより上り花巻へ。宮澤賢治記念館に午後四時到着。一時間程見学。しばし宮澤賢治の世界に浸る。午後五時二十分、花巻南ICより上り、二本松午後八時半到着した。遅かったので、デニーズで夕食をし、城山駐車場に戻り、解散した。今回の創立六十周年記念岩手八幡平山行にあたって綿密な企画を戴いた役員の皆様、運転手の青木会長、御芳志頂いた渡辺一郎さん及び車田さん、そしてわざわざ埼玉より参加して下さった内田さん、本当にありがとうございました。皆さんに感謝申し上げます。





▼Bコース、佐藤タカ子「黒谷地湿原から山頂へ」

予定より少し遅れ雨具を着けた人、着けない人、でバスに乗り、松楓荘を後に、樹海ラインを八幡平へと。この程度の雨であってほしい。藤七温泉を車窓から眺めて、茶臼岳コース希望者は下車し、バスは折り返し、黒谷地口へ。九名でここから山頂へと。弱い雨はあるが気にならない。刈払ひされた水量の多い小川の脇を進むと「熊の泉」があり、

られました。

源太森の案内がある。山頂はすぐです。見えます。樹林帯を抜けると湿原に。池塘も点在している。八幡沼に到着。左へ行くと湖畔に避難小屋「陵雲荘」が見えます。数石の広い道を登ると八幡沼、ガマ沼、湿原を見渡せるデッキがある。草が両方から茂っている中を歩くと樹林に囲まれた何も見えない山頂。今の展望デッキは十五年前くらい前に建て替えられています。風雨となり、しのぎながら全員との合流を待ちました。善雄さん提供のお酒で「祝会」記念撮影は「若いカップル」(ちよっただけ)にお願ひしました。一六一三郎の三角点を見なかったのが残念です。春のお花畑、秋の紅葉、また各々からの遠くの山並み思い浮かべ満足しました。木道は全体がギザミ等が入っていて、他の山と違ってました。滑り止めでしょうか?。八幡平ガイドに鏡沼の「ドラゴンアイ」が人気とある。五月中旬から六月中旬(魔女の噂のような)。雨なのでお昼は山頂レストハウスの三階で、松楓荘手作りのおにぎりを頂きました。塩味がきいてました。バスは次の目的地花巻へと向かいました。

三本の管より流れ落ち、コップも付いています。平坦な木道を進むと広い黒谷地湿原で、右へは茶臼岳、展望所の建て替え工事中でした。まもなく、登りになり、振り返り見たら、茶臼岳の山頂付近が見えました。平坦になると安比岳への分岐。ここで一息と思ったら雨が・・・そのまま進行。穏やかに登ると草原。樹林帯になる。唯一の登山者(女性)に会う(監視員の方だった)。「滑りますので気を付けて下さい」と声を掛け

▼Bコース、菅野善雄



今から六十年前先輩達があだたら山の会を発足させ、今に至る。当時の会員も少なくなり時代の流れで会も変わって来た様に思われる。今、百名山ブームと言って良いのか、数多くの名前を重ねる山行、一度登った山でなく、初めての山を望む人(山つぶし)が多くなって来ている様に思われる。同じ山でも毎回違う顔を見せられる。私は山を楽しむのではなく、山で楽しむ一人である。

六十周年記念は、参加者十八名と最近では会員の三分の一の参加、会山行では最高の参加であると思う。岩手県の松川温泉で六十周年記念式典・懇親会、翌日八幡平集中記念登山。三コースに分かれ雨の中の山行となる。Aコース五名、Bコース九名、Cコース四名、各登山口から入山する。私はBコース、男二名・女七名、黒谷地登山口を出発、古い木道、足元に注意をし歩く。登山道の左・右一帯以上刈払ひしてあるので、傘をさして歩いても支障無い。熊の泉を通ると黒谷地の木造展望台に出る。古くなったのか取り払われ新しい土台が建設された。雨も上がり少し木々の間から眺望も楽しむ事が出来たが安比岳コースからの合流点で小休憩、又雨となる。お花畑の登りはリンド

ウヤキリン草が見頃。雨でなければゆっくり観察したい所だ。縦走コースから十位位登った所が源太森(一五九五m)の山頂である。眺望は良いみたいたが雨で残念。記念写真を撮り下山。八幡沼を左に見て分岐点を右へ、湿原の中の木道を進む。湿原は草紅葉も始まり山の紅葉も間近を思わせる。陵雲荘避難所でトイレ休憩(二十人位収容、暖房設備あり)。山頂へはBコース組が一番、十五分二十分遅れでAコース・Cコースが山頂へ。会長より挨拶、美酒でカンパい、記念山行を祝う。記念写真を撮り下山。



八幡平駐車場レストハウスの片隅で全員で昼食後、帰路に行く。活気ある山の会で、七十・八十・百回と記念行事が出来る様、願っています。



9日9時52分、茶臼岳山頂



8日13時4分、高村光太郎記念館入り口

▼青春の在りし日々を懐かしく振り返った。 本多信治

あだたら山の会創立六十周年記念山行(若手・ハ幡平)に参加しました。この地は、私が専門学校を卒業して初めて就職したところ。...

今も変わらない偏屈な男なので、当時教授の命令には従うことが出来なかった。北に向かう自分が悲しく反省しながらの門出でした。...

を起しながら行くと、今のスキーリフト三機が物を載せて山を登っていた。目的地は千メートルの高地にあり、約三十分でバス...

翌日から仕事が始まった。朝は八時からで、午後四時には寮に帰った。娯楽は映画館があるだけで、ただ同然で見る事が出来た。...

私は雪が消えた六月からは茶臼から玉川温泉まで日帰りで駆け回り、黒谷地のリンドウには感激したものの...

私はこの地松尾鉱山で一年間お世話になり、五月にはやっと教授の許しを得て福島医大病院に就職できた。...

湯川溪谷三階滝周辺で、登山道整備作業を実施した。三階滝滝壺廻りの灌木繁茂が酷く登山道を見つけられないとの報告が寄せられたためだ。...

年の異常な暑さで、川岸の灌木が異常に枝葉を伸ばし登山道を遮ってしまったのだと思われる。...

九月十六日(日) 湯川溪谷、三階滝周りに登山道整備作業 報告 編集部



7時47分 塩沢登山口出発 参加者はカメラ含めて5名

言う事は無いと思われる。参加者は屏風岩まで登って昼食。下山しながら登山道に張り出した笹の刈払い、倒木の処理を行った。...



一番奥のテープは「はしご」、手前のテープ右側が三階滝「下の滝」の滝壺。



沢に下りたところに付けた案内テープ、上らずに、沢に添って進む。

を付けている、サワフタギも紫の実を付けている。林の中では「ナギナタタケ」がキノコとは思えない細い姿を見せている。紅葉はまだだが、気を付ければ植物たちの元氣に出会える。